

# 佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

佐賀市大和町大字川上927番地 佐賀県教育センター 中研修室棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

5/23 総会  
会長あいさつ

## 第56回佐賀県人権・同和教育研究協議会『総会』並びに研修会

”誰もが生まれてきてよかった“  
”子どもたちに差別のない未来を”  
と考える社会の実現を

会長 松本 定

第56回佐賀県人権・同和教育研究協議会『総会』並びに研修会』を5月23日(金)に開催いたしました。県内の社会教育、学校教育等関係者356人が福富ゆうあい館に一堂に会しました。



松本 定 会長(佐賀県伊万里市教育委員会 教育長)  
ご参会の皆様には、さらなる「教育・啓発」の取り組みをお願いいたします。

ご参会の皆様方には、日頃より各市町の行政、教育、保育の現場において、それぞれの立場で「差別の解消」と「人権が確立した社会の実現」に向けて、日々実践されていらっしゃることに、改めて、心より感謝申し上げます。

さて、21世紀は「人権の世紀」と期待されて四半世紀が過ぎようとしています。世界各地には紛争



や戦争などによって、多くの生命が脅かされ、人間らしく生きていくことが困難な現実があります。インターネット上には被差別部落をさらす情報や個人を誹謗中傷したり、プライバシーを侵害したりする書き込みが絶えませんが、「人権の学びを止めない」を合言葉に、さまざまな方法や手段を使い、研修会等を開催してきました。

行政、教育、保育の現場における一人ひとりの確かな認識と行動力を高めるために、そして、教育と啓発の実践につながるために、まさに今、一人ひとりの行動が問われていると思います。「誰もが生まれてきてよかった」と思える社会の実現のために、本日、ここにご参会の皆様方のさらなる「教育と啓発」の取り組みをお願い申し上げます。私のあいさつとさせていただきます。

### 来賓祝辞(県教育委員会副教育長 江島 宏様)

本協議会は、昭和45年に県内の公立小・中学校及び県立学校の全教職員の参加により発足されました。以来、人権・同和教育の実践研究や研修機会の充実などに取り組み、部落差別をはじめとするさまざまな人権課題の解消に向け、多くの成果を上げてこられました。これらの取り組みに対して深く敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。本協議会をはじめ、人権に関わるさまざまな関係機関・団体と連携し、児童生徒が自分らしく安心して生活することができる学校づくりを推進していきたいと考えています。(紙面の都合上、一部抜粋・要約)

### 来賓祝辞(メッセージ)

#### 【部落解放同盟佐賀県連合会 執行委員長 様】

第56回佐賀県人権・同和教育研究協議会総会のご盛会を祝します。ご参会の皆様方には、日頃から部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃にご尽力いただき、敬意を表します。今年には部落解放全国委員会から部落解放同盟に改称して70年、「同和对策審議会答申」が出されて60年、「部落地名総鑑」事件が発覚して50年など、部落解放運動にとって大きな節目の年です。しかし、未だに部落差別事件や人権侵害は後を絶たないのが現状です。包括的な人権救済や差別禁止法などの人権の法制度確立を求めています。(紙面の都合上、一部抜粋・要約)

第56回 佐同教 総会 【議事】

- (1) 2024年度事業報告および会計決算報告・監査報告に関する件
- (2) 2024年度の総括に関する件
- (3) 2025年度役員選出に関する件
- (4) 2025年度の研究課題に関する件
- (5) 2025年度事業計画および会計予算に関する件
- (6) その他

【研究のビジョン2025】

『第51回九州地区人権・同和教育夏期講座』が本県にて開催されます。テーマは『誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざして』。サガ発！学びと行動をすべての世代に！です。大会のコンセプトは、「1.事実と実践」「2.ネットワークづくり」「3.学びの継承と発展」です。



他県の参加者と交流することにより、九州各県の取組を知り、自分の実践を見つめ直したり、人権感覚をアップデートしたりできる絶好の機会です。これまでの佐同教の研究活動を、会員全体でさらに充実・進化させていきましょう。

【総会における参会者アンケートより】

・研修等での気づきにより個人が最初に取り組むであろう「相手の気持ちを考えて行動すること」では、「問題解決にならない」と断言されたようで、初読では正直なところ、衝撃を受けました。しかし、会場で出たご意見及びその回答のおかげで、その文章の趣旨が整理できて、良かったです。「問題解決には、

情緒や気持ちだけでなく、『歴史・制度・構造の問題が根底にある』ということ意識しよう」という注意喚起の一文であるのだと、解釈・理解しました。質疑応答における最後の方のご意見は納得しました。検討する場合は何度かあったはずなのに、なぜ気づかなかったのだろうかとも思いました。制度、心の問題（アプローチ）、両方必要ですよ。また、差別をなくそうと行動する人の生き方（ロールモデル）に学ぶことも大切だと思います。『佐賀メルカリ事件』、まさにこの事件が発覚した時、県の人権・同和教育室に勤務していました。対応に追われることもありましたが、学校教育に突きつけられた課題と捉え、人権・同和教育をさらに推進していこうという決意を確認したものです。今、人権・同和教育に長年携わった者の使命として、勤務校で管理職として職員に伝えているところです。

感じたこと〜】

研修会【講話 「私と同和教育」 38年間で



講師 伊藤 春雄 さん  
唐津市立浜玉中学校  
特任指導教諭

◎【佐同教の会員って誰?】

佐賀県がどのような状況で、他県とどのように違うかを理解していただいているでしょうか。実は佐賀県では、県内の公立学校の教職員になった途端、佐同教の会員になるのです。同じく、社会教育部の市町の関係部局の職員また教育委員会の職員にな

った時に、佐同教の会員になるというシステムになっています。個人で会費を払われたことはないですよ。他県では会員になる時には、自分で会員募集の欄から申し込みます。佐賀県は、全国の都道府県の中では稀な県かもしれません。ここにいらっしゃる会員の皆様方が、新採の方々を含めて職員に佐同教の会員であることの自覚を促さなければならぬところが、大きく違うと思います。

◎【『佐賀メルカリ事件』を通して、考えなければならぬこと】

学校では、部落差別についての学習がなぜ必要なのでしょう。学校での学習の中で、さまざまな事項に関して、子どもたちは関心や興味を持ってインターネットを使って調べています。意欲的な学習姿勢や態度を育てることに繋がっていきます。

時に、『誤った情報』と出合うことがあります。運動体の方々には『佐賀メルカリ事件』が起きたことで、差別問題を解消する学習指導の推進が留まってしまふことを心配されています。問題なのは、あるサイトで問題のデータ等を見つけた際に、「こんなものがインターネット上に放置されていたのか」と疑問に思わなかったのかということ。問題のどこが課題なのか、論点をすり替えられないようにしないといけないと思います。誰か一人ぐらい『正しい知識』をもって説明する人がいないのか、そういう学生がいないのかと私は思います。安易に「お金を稼ごう」とする風潮、その影響を受けてしまう若者がいたのではないのでしょうか。販売して売れる社会そのものが罰せられるべきだと思います。根本的な問題を問いかけ

ていくことが大切だと思えます。佐賀県では県条例を制定して方針を策定していますので、今後進展していくように、私たちの努力が必要だと思えます。

### ◎【自分事として考えることの大切さ】

子どもたちの主体的な判断力を育てるためには、子どもたち自身に考えさせるのが一番いいでしょう。研修体制として、いろいろな研修の在り方があっていいと思います。人任せではなく、組織全体で支えていく、他のどんなことに関しても同様だと思えます。

### ◎【同和教育は、教育そのものを豊かにする】

「今日も机にあの子がいない」は、よく聞いてきた言葉ですが、私にとっては不登校対応であり、関係機関と連携を取り合うことの必要性を意味します。教育は、その子の育ち、それから将来への道を開いていかないとけませんね。『誰一人取り残されない教育』は、私としては「ピタッ」ときます。ただし、この誰一人は、世界中、地球上の全ての人のことだと考えています。(講話内容の一部抜粋・要約)

### 【研修会における参会者アンケートより】

・伊藤さんの振り返りの中で、現在の状況や同和教育がどのように行われてきたかがよくわかりました。「研修体制の確認と、人が変わっても…」の部分をしっかりやりたいと思えます。  
 ・伊藤さんが経験されてきたこと、その思いが伝わる講話でした。子どもの問題行動の背景にある状況や思いに目を向けることの大切さ、それは、被差別部落の人たちのさまざまな思いにも通じるもので、その内容がとてもよくわかりました。  
 ・「本当に困っている側に寄り添わないといけない

い」、この言葉が特に心に残りました。賤称語を学ぶ意味を考える時、「ただの教えっぱなしにならないようにすべきだ」と、改めて感じました。  
 ・地域毎に教育の推進状況が違うことに驚かされた。「知識のみでは何の役にも立たない」と言われたことが、心に刻まれた。推進者としてフォルダの管理をしっかり行うようにしようと思った。「本質を見抜く」と言われたのが、心に強く残った。

・「知らないことが、『いじめ』『差別』につながる」、この言葉が強くなりました。「不登校、いじめの奥(裏側)に根っこがある」、まさにそうだと私は思います。その過程に触れることができていないことで、問題解決に時間がかかったり、見過ごしたりすることは、現実的に本当に多いと思えます。

・38年間の重みを傾聴することができ、貴重な時間となりました。人権問題は「学び、寄り添うこと」と感じました。「知ることとは、学ぶこと」とだと、新たに私の心に強く響きました。

### 【佐同教事務局、研究局より】

・日程や時間等につきましては、昨年度までと同様、さまざまな意見(日程、提案する時間の長短、集合の必要性の有無等)がありました。  
 ・総会の内容(決算、総括、研究課題、事業計画等)につきましてもさまざまな意見がありました。概ね好評でした。できることにつきましては、次年度に向けて順次改善していきたいと思えます。  
 ・特に、研究課題についての意見で、「差別は思いやりで解決する問題ではないと言えます。差別は、私たちの社会にある歴史・制度・構造の問題なのです」

と断定していいのか、「違和感がある」という考えについてはいろいろな意見があり、賛否両論あると思われまます。当日の受け答えの中で、「思いやりだけで解決する問題ではない」、差別をなくしていく両輪として「法教育やネットリテラシー教育等からのアプローチも必要」等、回答しました。

・研修会の内容につきましては概ね好評で、「管理職として学びになった。話を職員にも広げたい」とか、「さらに人権・同和教育を推進していきたい」という意見が多かったです。

・総会後の講演会における講師の話については、「もつとじっくりと時間を取って話を聞きたかった」とか、「リモートで担当者等にも聞かせたかった」という意見も感想として一部ありました。

今後とも、佐同教としましては、すべてのさまざまな人権課題につきまして、あらゆる世代に「学びと行動」を促す取り組みをめざしていきます。

### 【編集後記】

梅雨の時期に入り、蒸し暑さを感じる今日この頃、夏の訪れを感じつつ、皆様方のご健勝をお祈り申し上げる次第です。総会を終えて、佐同教としての今後の歩みと方向性を明確にすることができました。  
 講演会の講師を務められた伊藤さんは「被差別地区にルーツのある児童生徒は、すべての学校にいると思えます。皆様方の周りにも、被差別地区にルーツのある方が実際にいらっしゃるのです」と締めくくりとして、強く参会者に呼びかけられました。県内すべての地域や学校で、人権・同和教育が主体的に進められていくことが求められているのです。